

令和2年度 学校評価計画

石川県立金沢中央高等学校夜間制

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 現 状 | 評価の観点 | 実現状況の達成度判定基準 | 評価の基準 | 備 考 |
|--|---|----------------|---|---|--|-------------------------------|----------------------|
| 1 生徒の実情に応じた学び直しによる基礎学力の定着を確かなものにするるとともに、ICT活用、アクティブラーニング、ユニバーサルデザイン化等を推進することで学力向上を図る。 | 時間、あいさつ、携帯電話の使用等、良好な学習環境の向上を目指すとともに分かる授業を行い、授業の欠席の減少につなげる。 | 教務課 生徒指導課 | 授業が分かることで発言できる機会が増え、自ら授業に参加しているという意識が高まりつつある。 | 【成果指標】 学ぶ意欲をもち、学習に真面目に取り組もうとする生徒を増やす。 | 授業がよく理解できると思う生徒が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 80%以上90%未満である。 D. 80%未満である。 | C、Dの場合、その原因を分析し、取り組みを再検討する。 | 7月、12月に調査する。 |
| | 基礎的・基本的な学習内容を主体的に学ぼうとする意欲を向上させるため、アクティブラーニングの場面を増やす。 | 教務課 | ICT機器を日々の授業で積極的に活用している。生徒の実態に応じた効果的な使用がさらに求められている。 | 【満足度指標】 ICT機器利用が昨年度より増加し改善されている。 | ICTが効果的に利用されていると思う生徒が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 80%以上90%未満である。 D. 80%未満である。 | C、Dの場合、その原因を分析し、取り組みを再検討する。 | 7月、12月に調査する。 |
| 2 卒業までを見通したキャリア教育に組織的に取り組み生徒の希望進路を実現する。 | 各教科の授業を始めとして、学校行事、LH、総合的な学習（探究）の時間において、有効なキャリア教育を実践し、卒業生全員の進路実現を図る。 | 進路課 学年 | 卒業生5名のうち4名が、卒業後も就職・臨時的な就業等で社会とつながりをもっている。 | 【成果指標】 年度末には卒業生の進路先が内定する。 | 卒業生徒の進路内定率が A. 100%である。 B. 90%以上100%未満である。 C. 85%以上90%未満である。 D. 85%未満である。 | C、Dの場合、その原因を分析し取り組みを再検討する。 | 年度末に調査する。 |
| | 望ましい職業観と社会性の育成を図るため機会をとらえてキャリア教育・職業教育を進める。学校生活に適応出来ている未就業の生徒には就労体験を積極的に奨励する。また生徒の就労先を訪問し、生徒に声かけをする。 | 進路課 学年 | 不登校経験者や、対人関係が苦手な生徒は学校生活だけで目一杯のところがあるが、年次が上がるほど適応力がつき自信が芽生えている。 | 【成果指標】 就業している生徒の比率を高める。 | 就業している生徒の合計が全生徒中の A. 80%以上である。 B. 70%以上80%未満である。 C. 65%以上70%未満である。 D. 60%未満である。 | C、Dの場合、その原因を分析し取り組みを再検討する。 | 年度末に調査する。 |
| 3 規範意識の育成、教育支援の充実、外部機関との連携により安心安全な学校づくりを推進する。 | 生徒や保護者の思いを把握し、関係機関と連携して適切な支援を行う。また、学校からの情報発信として、さらなるウェブサイトの充実を図る。 | 総務課 | 学校行事や教育活動の周知を図るためウェブサイトを活用しており、更新が約3回/月となっている。 | 【努力指標】 ウェブサイトの内容を定期的に更新することにより、アクセス回数の増加を図る。 | 年間更新回数が A. 40回以上である。 B. 25回以上40回未満である。 C. 15回以上25回未満である。 D. 15回未満である。 | C、Dの場合、その原因を分析し取り組みを再検討する。 | 年度末に集計する。 |
| | オリエンテーション、LH、全校集会などを通して生徒の規範意識の定着に努める。 | 生徒指導課 | 指導の成果があり、昨年度は無断早退が0件であった。 | 【成果指標】 無断早退ゼロを継続する。 | 無断早退の件数が A. 0件である。 B. 1件以上5件未満である。 C. 5件以上10件未満である。 D. 10件以上である。 | B、C、Dの場合、その原因を分析し、取り組みを再検討する。 | 7月末に中間集計を行い前年度と比較する。 |
| | いじめは、どのクラスでも、どの生徒でも起こりうるという基本認識に立ち、全職員が「いじめ防止基本方針」に基づき、一体となっていじめを未然に防ぐよう意思疎通を図る。 | 生徒指導課 | 過去にいじめで苦い経験を持った生徒も存在し、その観点から比較的他人を思いやることができる生徒が多い。 | 【成果指標】 いじめを未然に防ぐ。 | いじめの件数が A. 0件である。 B. 1件である。 C. 2件である。 D. 3件である。 | B、C、Dの場合、その原因を分析し、取り組みを再検討する。 | 年2回アンケート調査を実施する。 |
| | 心身の健康に関心を持ち、規則正しい生活習慣ができるよう進める。 | 保健給食課 | アルバイト時間などにより、自分自身の健康について保持増進が難しい生徒がいるものの指導は継続している。 | 【成果指標】 自らの健康管理を行うことができる。 | 普段の睡眠時間が7時間以上の生徒が、 A. 70%以上である。 B. 50%以上70%未満である。 C. 30%以上50%未満である。 D. 30%未満である。 | B、C、Dの場合、その原因を分析し、取り組みを再検討する。 | 7月と12月アンケート調査を実施する。 |
| 4 スポーツ活動や文化活動、ボランティア活動等をおして自主・自立・助け合いの精神を備えた活力ある生徒を育成する。 | 生徒会行事への積極的な参加を促し、生徒会活動への自覚を高める。 | 生徒指導課 (生徒会) | 生徒会行事の内容の工夫により、参加率が上昇傾向にある。 | 【成果指標】 生徒会行事の参加率が向上する。 | 生徒の生徒会行事の参加率が A. 90%以上である。 B. 80%以上90%未満である。 C. 70%以上80%未満である。 D. 70%未満である。 | C、Dの場合、その原因を分析し活動内容を検討する。 | 年度末に調整する。 |
| | 部活動への積極的な参加を促し、活力ある生徒の育成に努める。 | 生徒指導課 (生徒会) | 夜間の活動のため、参加に制限があるのが現状である。 | 【成果指標】 部活動の参加率が向上する。 | 部活動実施日のうち生徒の参加率が A. 90%以上である。 B. 80%以上90%未満である。 C. 70%以上80%未満である。 D. 70%未満である。 | C、Dの場合、その原因を分析し活動内容を検討する。 | 年度末に調整する。 |
| 業務改善と効率的な働き方の推進 | ・ICT等を使って提示する教材の共有をさらに進める等の授業改善や業務の聖職を推進する。 ・定時退庁日の提示等により、勤務時間を意識した働き方を浸透させる。 | 教頭 | 月ごとの集計で時間外勤務が大幅に超過している職員はなく、有給休暇の消化も良好である。業務改善のために、机上や職場環境の整理整頓をすることが求められる。 | 【努力指標】 業務の効率化を図るために、各自が整理整頓を行った。 | 職場環境を改善することができたと感じた教職員が、 A. 80%以上である。 B. 70%以上80%未満である。 C. 60%以上70%未満である。 D. 60%未満である。 | C、Dの場合、その原因を分析し取り組みを再検討する。 | 9月、1月に調査する。 教職員対象 |